

# 「千葉氏を語る」だより

## 「千葉氏を語る」だより

令和3年度  
第11号  
発行・編集  
千葉氏を語る会事務局  
発行日  
令和3年4月20日

ご挨拶

千葉氏を語る会長

向後保雄

コロナ禍の中、3密回避の観点から研修会等の行事は自粛させていただいておりますが、千葉氏を語る会会員の皆様にはご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、今年には千葉市市政施行100周年の年で、千葉氏を語る会としても参加協力のため六月五日の総会での湯浅治久教授による記念講演を記念事業として市の認証を受けております。

その他、千葉開府600年に向けて、本市のアイデンティティの一つである千葉氏を知ってもらう為に、会員有志の皆さんが、

公民館で紙芝居を実施しようと計画しております。

この紙芝居は、新宿小学校の図書館員を主に近隣の図書館員の方達が市作成の漫画本「千葉常胤公ものがたり」を基に手作りした紙芝居が大変よくできていたもので、私が千葉南口ターミナルクラブの会長をしていた時に、十校に対して奉仕活動で紙芝居を実施したところ大変喜んでくれたという経緯があり、会員有志の皆さんの実施計画案となりました。

できればこれも100周年記念事業として千葉市の認証を受けたいものです。六年後の千葉開府600年の成功を目指して、今後とも会員の皆様のご指導ご協力の程よろしくお願い致します。

### 本佐倉城址の見学勉強会

(会員)高野利太郎

今回は久しぶりに現地勉強会とし、酒々井町と佐倉市の本佐倉城址を見学することにした。そこで、令和2年11月29日(土)9時30分参加者25名が集合し、今回は酒々井町のボランティアガイドが6名参加して6班に別れて案内してくれた。

#### 1、築山展望台

最初に駅近くの築山展望台に登る。ここは酒々井町随一の景観として親しまれている場所であり、眼下には木内常右衛門の旧跡があり、その先には印旛沼が広がっており、さらにその遠方関東平野の名峰筑波山が浮かび上がって見える。中世には、印旛沼は鬼怒川(現利根川)に繋がっており下野国古河には船で往来が出来る状態であった。又、明治時代には天皇が成田の御料牧場に行幸になる際には此処を訪れた。このことを記す「明治天皇御註ひつ記念碑」が立てられている。

#### 2、下り松・出羽三山

ここから西へ少し登り坂を行くと「下り松」(成田方面に向かうと下り坂)と呼んでいる坂がある。成田街道の難所であったが、現在では景色も良く整備されて見所がある。

#### 3、麻賀多神社

印旛郡には19の麻賀多神社があり成田台方の社が本社である。当町には下宿と下台に二社がある。主祭神は和久産巢碑命(ワカムスビノミコト)で古事記、日本書記には稚産霊命と記されている。「わか」とは若々しい、「むすび」とは誕生と育成を司る神として五穀、養蚕の育成の神として伝えられている。

#### 4、八抱の松・古松碑

(コシヨウヒ)

安政5年(1858)発行の成田名所絵図には樹齢700年(800年、高さ100尺(33メートル)、幹の太さ10メートル位)の大木として伝えられている。その根元に妙見様が祀られていたのご神木として大事にされていた。村人は記憶に残すようにと、「古松碑」を立てた。当町は成田街道の宿場駅であったので、

「酒々井駅古松碑」と呼ばれた。

### 5、酒の井

昔、後冷泉天皇の天喜年間（1053～1058）の頃、この地に老いた父母と親孝行な息子が住んでいた。父はお酒が大好きであったので、息子は一日中働いて得たお金を酒を買って帰り、父が喜ぶのを楽しみにしていた。或日酒を買う金がなく、とぼとぼと歩いていると、酒の匂いがある井戸があり飲んでみると、本当の酒だったので、持つて帰り父を喜ばせた。記念に井戸のそばに碑を建てて、村名も酒々井となった。（色々な説があるがここではやめる）

### 6、真言宗勝蔵院

次に西に向かって徒歩5分ほどで勝蔵院に着く、先ず目につくのは朱塗りの仁王門には仁王像と狛犬が坐している。奥の本堂には、高さ7尺（2メートル31センチ）の不動明王が祀られ、左右に2体、高さ3尺（9センチ）の脇侍が控えていて、長く地元の信仰を集めている。この不動明王は、江戸時代

の初期佐倉藩の殿であった掘田正信公の時代に成田山への参詣がさかんであったため、当村でもと、江戸の仏師に依頼して不動明王を掘らせた。その時仏師は甲斐の武田信玄公像も依頼されており、不動明王と信玄公の頭を間違えて付け替えてしまった。そのため不動明王の顔は殊のほか恐ろしい顔に出来ている。

### 7、本佐倉城址

続いて北へ急な坂道を下り20分ほど歩いて本日の目的地城址に到着する。

#### ①東山馬場（V郭）

先ず城跡全体の東南部の東山馬場という場所に着く（現在は駐車場）。ここは城跡の低い広場になつていて、調査の結果では建物等は発掘されない。

#### ②城山（I郭）

その南側高台に城山と言われる広場があり。此処は主殿、会所、庭園、門、櫓、塀等の屋敷群が発掘され、主殿では当主が執務し、客人との対面、宴会等を行う場所であり、

南庭には茶室も建てられた。このように当地区は城跡の主要部分であり、当主、家臣等の活動の様子がうかがえる。

#### ③奥の山（II郭）

その南西には奥の山と呼ばれる広場があり、妙見宮を祀った一辺15メートルの基壇があり、出陣式等の儀式や儀礼を行う場所であった。

#### ④倉跡（III郭）

ここは倉庫群が有ったと考えられ、調査の結果堀立柱の建物が広範囲に分布している。又、炭化した米が多く見つかり、その他供膳具や調理具、貯蔵具等も出土されたことから倉庫だけでなく、人の生活空間も存在したと考えられる。

#### ⑤IV郭

平成19・24年と2回にわたり発掘調査が行われ、門跡のほか東山虎口からI郭、III郭へと向かう通路跡や柵列跡が見つかり、倉跡の虎口施設に当たる重要な郭と推定される。

⑥東光寺ビヨウ（VI郭）北側に二つの突出する物見台によって守られた広大な場所であり、北側丘の

中腹に帯状に中段が築かれている。その性格はまだよく解っていない。

#### ⑦セツテイ（VII郭）

ここは接待の場所、又は形状（嚴重な虎口、土塁なし、大規模な空堀）から人質郭とも考えられる。建物跡も解っており、供膳具、調理具、貯蔵具等もあり、又、他の郭ではあまり見られない囲碁、茶壺、火箸等も出土している。

修了後、元の道路を北に根古屋の部落で中食して徒歩で佐倉市に入り勝胤寺に入り、千葉介勝胤以降の当主の墓を見学して、大佐倉駅にて解散する。



紙芝居 千葉常胤物語

この紙芝居は、千葉市民へ千葉氏を認知して貰う目的で、初心者に受け入れ易い内容にして、歴史の流れを知って貰う様に簡単なものにしてあります。

千葉の街の礎を築いた一族、  
千葉氏と私達の活動

千葉氏は桓武天皇の血を引く関東の名族です。

平安時代後期の一、一二六年に千葉常重が緑区大椎町から現在の中央区亥鼻付近に本拠を移した  
ことにより、千葉市の街としての歴史が始まったと言われていま  
す。常重の子、常胤は千葉氏の中興の祖とされる人物です。

一、一八〇年、石橋山の戦いに敗れた源頼朝が海を渡って房総に逃れてき際、常胤はいち早く頼朝の味方に付くことを決めました。その常胤は一貫して頼朝を支え、鎌倉を本拠とするよう

進言するなど、御家人の筆頭格として活躍しました。  
頼朝も常胤を父のように慕っていたといわれています。

千葉の街を開いた千葉氏が鎌倉幕府の成立に大いに寄与し、その功績により全国各地に所領を得て、有力御家人として幕府を支えました。

私達千葉市民として郷土の先人達の活躍をしり、大いに誇りと感ずる処であります。

「千葉氏を語る会」ではできるだけ多くの千葉市民がこの活躍の歴史を知り、千葉市が進める町造りのアイデンティティとして確立できる様、この紙芝居も教材の一つとして、又、日頃の活動で知り得た多くの知識なども合わせて講演活動を進めて参りたいと思っております。

千葉氏系図1

桓武天皇 — □ — □ — 高望王 —

平良文 — 忠頼 — 忠常

□ — □ — □ — 常重 — 常胤 —

— 千葉 (宗家)

— 胤正 (千葉氏) — 小城 (佐賀)

— 師常 (相馬氏) — 相馬 (福島)

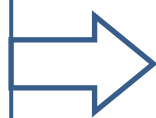
— 胤盛 (武石氏) — 亘理 (宮城)

— 種信 (大須賀氏) — 好島庄 (福島いわき)

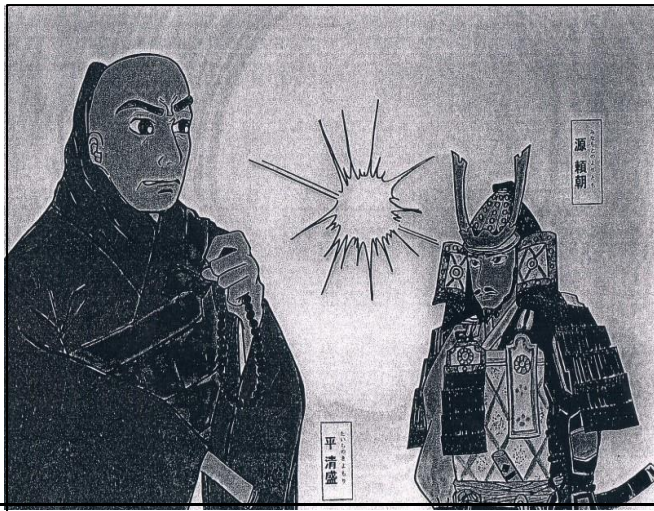
— 胤通 (国分氏) — 大崎 (千葉香取)

— 胤頼 (東氏) — 山田庄 (岐阜郡上)

千葉六党







### 千葉常胤物語

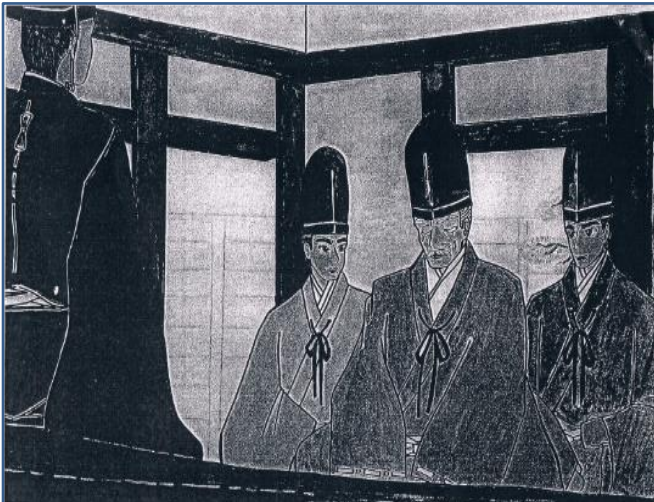
みなさんは、この人物「千葉常胤さん」を知っていますか。名字がみなさんの住んでいる「千葉市」と同じですね。常胤さんのお父さん常重が千葉市の亥鼻のあたりに移り住んでいたことから「千葉」を名のようになりました。それでは、千葉常胤さんの活躍をみていきましょう。

常胤の生きた平安時代は、自分たちの土地や財産を守るための戦いが、日本の各地で起きていました。

そのなかで、とても大きな力を持っていたのが、平清盛率いる平氏でした。それに対して、戦いをいどんだのが源頼朝でした。

常胤は頼朝のお父さんといっしょに、昔、戦ったことがあり、頼朝とは縁のある武将でした。

②



頼朝は、千百八十年、平氏を相手に戦をしますが、自分たちの十倍もの人数の平氏軍に勝つことができませんでした。頼朝は、味方を集め力を強めるために、戦いのあった相模の国から房総へとわたります。

① 「ここで、あきらめるわけにはゆかぬ。

房総でもう一度力をつけようぞ。」

しかし、房総にも敵は多く、困った頼朝は、常胤に力をかけてほしいと使いを出しました。

③

常胤の館にいった使いの者が頼朝の言葉を伝えます。

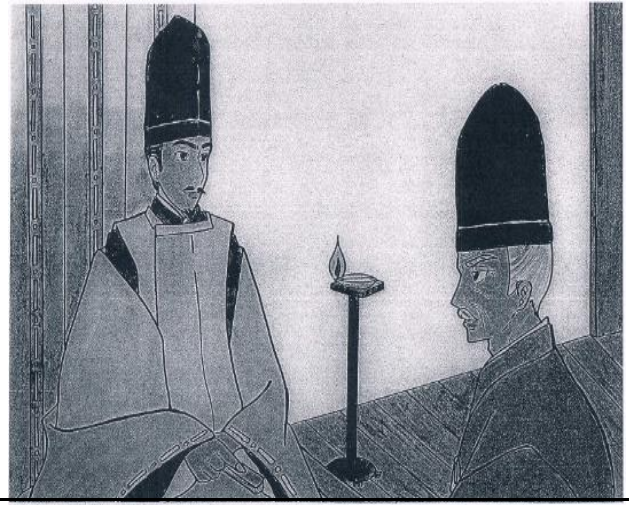
② 「千葉常胤どの、父義朝を助けた時のように、そなたの力をかけてほしいと、我が主人がもちしております。」

この言葉を聞いた常胤は、頼朝が真っ先に自分を頼ってくれたことに感動し、しばらく言葉がでませんでした。それから力強く答えました。

③ 「いちはやく言葉をかけてくださり、我ら千葉一族誇りに思います。頼朝さまのお気持ち、しかと受けとめました。」

こうして常胤は頼朝の味方になりました。④





常胤と再会し、力をえた頼朝は、すべてを平氏と戦うつもりで思っていました。そんな頼朝に常胤は助言をします。

④「頼朝さまに一つ提案がございます。鎌倉に拠点を築かれてはいかがでしょうか。」

⑤「鎌倉？なぜ鎌倉なのだ？」

⑥「鎌倉は源氏に縁のある土地。それに、山と海に囲まれていて敵が攻めにくい。まさに源氏復活にふさわしい場所ではありませんか！」

⑦「それは名案だ！鎌倉をめざさなくてはなにか！」

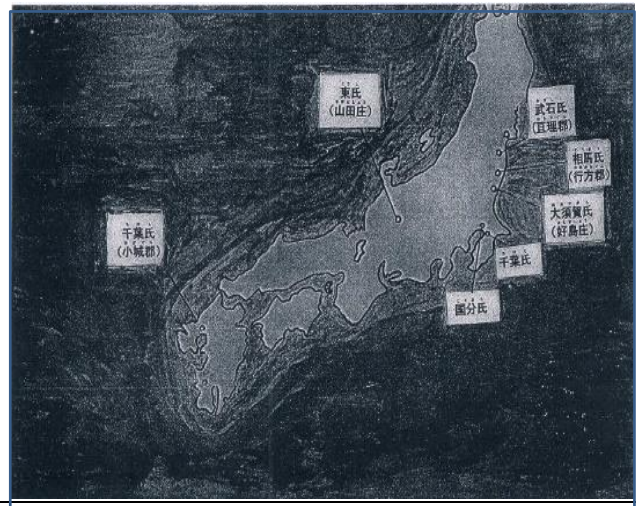
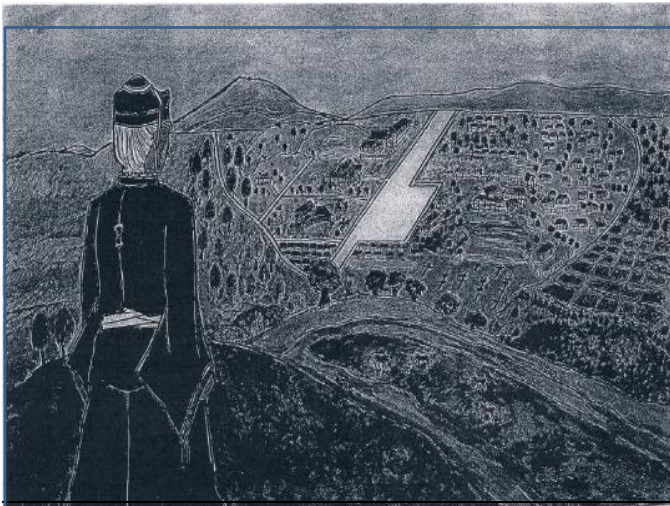
⑧「こうして頼朝は、大切なことを決める時に、常胤を頼りにしていくのです。それは、頼朝に「そなたを父のよう」に思うと言わせるほど深い絆となっていました。」

鎌倉に拠点を移した頼朝は、じょじょに力をたくわえ、平氏との戦いに勝っていきました。

一一八五年、頼朝軍は、西へ西へと逃げる平氏と壇ノ浦で戦い、ついに平氏をやぶりました。

その後、常胤は九州に残る平氏に味方する勢力をおさえたり、奥州（今の東北地方）に大軍を率いて攻め進み、奥州藤原氏を攻め滅ぼしたりと、頼朝の鎌倉幕府づくり、おおいに力をつくしました。

⑥



その働きが認められ、常胤は下総以外にも全国に領地をもらいました。その領地は常胤の六人の子もたちに分け与えられ、「千葉六党」と呼ばれました。

⑦

一一九九年、源頼朝が亡くなり、あとを追うようにして常胤も八四歳で亡くなりました。当時としては、とても長生きでした。

常胤が亡くなった後も、千葉六党は鎌倉幕府を支え、その後数百年にわたり繁栄しました。先祖から譲り受けてきた土地を守るため、いっしょうけんめいに働いてきた常胤。その活躍により下総は栄え、千葉市の原点となったのです。

これからも、千葉常胤さんは、千葉市の未来を見守ってくれていることでしょう。

おしまい

⑧



年表 (鎌倉幕府成立～千葉氏滅亡)

中央の動向	地方(下総、上総、他) 動向					
1180年 源頼朝 挙兵	1126年・常重 大椎城から千葉庄へ移る 千葉開府 <ul style="list-style-type: none"> <li>源頼朝挙兵以降、石橋山で敗れた頼朝を逃れてきた房総の地で迎え、東国武士団を糾合し頼朝に加勢</li> <li>平氏(西国)、藤原氏(東北)を掃討す、その戦功により千葉氏は全国各地に所領を得る</li> <li>千葉六党(常胤子息6人)、各々所領を得て独立</li> <li>常胤、鎌倉幕府成立に大きく寄与し、有力御家人として幕府を支えた</li> </ul>					
1192 鎌倉幕府 成立	1201 千葉常胤 没 (84歳)					
1199 源頼朝 没 (54歳)						
1274 (文永役) 蒙古襲来						
1281 (弘安役) “	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒙古襲来の為 幕命により九州に所領のある当主は下向を命じられた、千葉氏は福岡今津浜に防塁を築く等 防戦に努めた</li> </ul>					
1333 鎌倉幕府 滅亡						
1334 建武 新政	<ul style="list-style-type: none"> <li>天皇による政治復活を意図する新田義貞の動きあるも成り立たず、一方足利尊氏による足利幕府成立に向けての動きが増した</li> <li>千葉氏は二派に別れて争う                     <table style="margin-left: 40px; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">足利尊氏派 北朝(光明天皇) 胤貞(千田、九州千葉)</td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">)</td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">X</td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">(</td> <td style="text-align: center;">新田義貞派 南朝(後醍醐天皇) 貞胤(下総宗家、郡上東氏)</td> </tr> </table> </li> </ul>	足利尊氏派 北朝(光明天皇) 胤貞(千田、九州千葉)	)	X	(	新田義貞派 南朝(後醍醐天皇) 貞胤(下総宗家、郡上東氏)
足利尊氏派 北朝(光明天皇) 胤貞(千田、九州千葉)	)	X	(	新田義貞派 南朝(後醍醐天皇) 貞胤(下総宗家、郡上東氏)		
1335 南北朝の動乱						
1392 “ 合一						
1338 足利幕府 成立 (室町幕府)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幕府は 関八州、甲斐、伊豆の10ヶ国を鎌倉府(鎌倉公方)に統治を任せた 補佐役((1438)関東管領)を置いた</li> <li>代を重ねると幕府の意向を受けた関東管領と鎌倉公方の対立表面化、千葉氏を始め東国武士団もその影響を受け混乱し、永享の乱(1438)、享徳の乱(1454)に巻き込まれた結果、</li> <li>1455 千葉宗家(胤直)は滅亡に至る。</li> <li>1457 千葉宗家(輔胤)は居城の千葉城を本佐倉城へ移した</li> </ul>					
1467 応仁の乱						
1590 小田原城(北条氏)落城 豊臣秀吉全国統一	1590 千葉氏(北条氏旗下) 北条氏と共に滅亡					
1600 関ヶ原合戦						
1602 徳川幕府 成立						
1615 豊臣氏 滅亡						

お知らせ

「千葉氏を語る会」では広く会員を募集しております。皆様のお知り合いの方で千葉氏の歴史に関心がある方がいましたらご紹介ください。事務局長日向または役員にご連絡ください。この度、千葉市中央区千葉寺町にある千葉市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録しまして、協議会の施設を利用することが出来るようになりました。

編集後記 編集子

大変遅くなりましたが、会報十一号をお届けします。今月号では、小学生向け紙芝居を特集しました。

今後とも益々本会の活動に御協力頂ければ幸いです。本年も会員一丸となって、本会の設立趣意書に乗っ取り、各々の事業を確実、誠意を込めて推進し、会員の納得を得られるように会の運営を進めて参りたいと思っております。どうか会員皆様の御協力をお願い致します。